

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 9 月 24 日 (2015.9.24)

【公開番号】特開 2015-34673 (P2015-34673A)

【公開日】平成 27 年 2 月 19 日 (2015.2.19)

【年通号数】公開・登録公報 2015-011

【出願番号】特願 2013-166060 (P2013-166060)

【国際特許分類】

F 2 5 B 1/00 (2006.01)

F 2 5 B 6/04 (2006.01)

F 2 5 D 11/00 (2006.01)

F 2 5 D 21/04 (2006.01)

【F I】

F 2 5 B 1/00 3 0 4 L

F 2 5 B 6/04 Z

F 2 5 D 11/00 1 0 1 B

F 2 5 D 21/04 F

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 8 月 11 日 (2015.8.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

図 5 は、図 4 の設定テーブル 10A の一例を示す図である。図 4 及び図 5 に示すように、設定テーブル 10A は、外気温度 TA (絞りモード 1 ~ 3) 毎に異なる流動抵抗 Rf0 ~ Rf3 が関連付けて記憶されたものである。また、運転条件設定手段 10B は、外気温度センサ 9a により検出された外気温度 TA に基づいて設定テーブル 10A からいずれかの絞りモード 1 ~ 3 を選択するものである。なお、図 5 においては、3 段階の絞りモード 1 ~ 3 が記憶されており、この絞りモード 1 ~ 3 として外気温度 TA 毎に流動抵抗 Rf0 ~ Rf3 が関連づけて記憶されている場合について例示している。具体的には、外気温度 TA が第 1 温度しきい値 Taref1 以上である場合 (絞りモード 1)、外気温度 TA が第 1 温度しきい値 Taref1 より小さく第 2 温度しきい値 Taref2 よりも大きい場合 (絞りモード 2)、外気温度 TA が第 2 温度しきい値 Taref2 以下である場合 (絞りモード 3) に分類されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

【数 1】

$$\text{外気温度TA} \geq \frac{T_{mp0} \times t_0 + T_{mp1} \times t_1}{t_0 + t_1} \geq \text{露点温度Td} \quad \dots (1)$$

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】

10A
↓

絞りモード	外気温度TA	減圧装置24の流動抵抗Rf
絞りモード1	$TA \geq T_{Aref1}$	最小流動抵抗Rf0(温度T _{mp0})
		第1流動抵抗Rf1(温度T _{mp1})
絞りモード2	$T_{Aref2} < TA < T_{Aref1}$	最小流動抵抗Rf0(温度T _{mp0})
		第2流動抵抗Rf2(温度T _{mp2})
絞りモード3	$TA \leq T_{Aref2}$	最小流動抵抗Rf0(温度T _{mp0})
		第3流動抵抗Rf3(温度T _{mp3})
絞りモード不可	—	最小流動抵抗Rf0(温度T _{mp0})